

新審査会員の抱負



秋山寿子 (札幌)

新しい出会いと発見を

このたびは審査会員に推挙いただき、大変
光栄に思っております。責任の重さに身の引き
締まる思いです。

表現する喜びを感じながら、新しい出会い
や発見を求めて、新たな気持ちで写真と取り
組んで参りたいと思っております。今後とも御
指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



馬場和美 (旭川)

「不易と流行」を見極めて

上川支部の発足と同時に道写協に入会し、
第28回写真道展で初入選しました。

以来旭川支部に移籍してからも、志賀芳彦
顧問を始め、諸先生の御指導を頂き、支部での
交流を通して多くを学ばせて頂き、感謝の気
持ちでいっぱいです。

写真界も現在は、変化とスピードの時代で
すが、今後も先輩会員諸氏に学びながら、「不
易と流行」を見極めつつ務めていきたいと思
います。

随想=私の一枚

(シリーズ-60)

審査会員 大崎 和男 (帯広)
「命」



ありし世のニューヨークツインタワー

乾板の1枚撮りからブローニー、35mm、そしてデジタルと日進月歩の
写真技術の進化は喜ばしいことだが、撮影マナーの悪さが目にあま
ることもある。

先頃、写真家・テレビ局と名を散らす者が、小動物の巣穴を叩き、
加えて爆薬を仕掛ける等の横暴な振る舞いに憤りをおぼえた。また
写真ツアーの講師がいきなり「この木は邪魔だ」と生徒の前で伐採
したという。自分の教室の生徒を逃がさないための策略か。ごく一部
の心無い者の行動で撮影者全体の品位が汚されるのはたまらない。
景勝地の「立入禁止」の立て札は写真愛好家達の加害行為と言っ
ても過言でない。美瑛の丘の「哲学の木」伐採も嘆かわしい。
大事なのは自分の直感を信じて感動したものを撮ること、テーマ
が見つければ長いスパンで創作出来るだろう。個々の活動意欲を引
き出し高め合う努力を続けたい。

閑話休題(それはともかくとして)

「命は自分で守る」と言い張ってニューヨークに移住した娘、か
れこれ4分の1世紀以上前にもなる。今はネット社会で、簡単に
連絡を取り合えるが、遠くにいるのに違いはない。

掲載写真は25年前「ニューヨークの印象」と銘打ち帯広のデ
パートで個展を開催した。その時の1枚だ。

初めて訪れたとき、娘の部屋から見えたツインタワーがテロ事
件で姿を消してしまった。

当時北海道新聞から娘に取材依頼があり現場写真が送られ
てきた。高熱に耐えきれなかつたのであろう人々が蟻のように
降ってきた。なかには恋人同士が手をつなぎ合つて飛び降りる
光景もあった。

事件後、ろうそくや花を供えて祈る人々の姿があちこちで見
られた。行方不明者の顔写真に添えられたメッセージが涙を誘
う。人種を越えたボランティアの輪が広がり団結が増したとい
う。

娘のことこまやかな現地報告が北海道新聞の記事になり報
道された。これこそ写真力に他ならない。このとき娘は「命は自
分で守り切れない」とぼやいた。

写真を始め60年にもなる。

いまだに気に入った作品は出来ていない。ただ馬齢を積み重ね
てきたに過ぎないが、命のある時間は限られている。

五感の働きが
鈍らないうち

に、これぞとい
う会心の1枚
に出会いたい
のである。



著者紹介

大崎和男

画家、写真家、彫刻家、
陶芸家、俳句と多彩。
以前道新にコラムを連
載。HPあり。